

# 東京都中学校理科教育研究会 10月役員会・理事会

会長あいさつ

2010.10.28

練馬区立豊玉中学校

高 島 勇 二

急に冬めいた気候になり雪の便りがある一方で、奄美大島では台風を越える雨量で水害も発生したり、熊が山から街中に下りてきたりと、なんだか自然の歯車が異常な回転を始めてしまったような不気味な感じを受けます。持続可能社会を実現するための基盤作り、学校教育に課せられた大きな課題です。理科教育においてもその重要な役割を担っています。皆さんで力をあわせて、理科教育の充実を進めていきましょう。

## 1 都中理としての活動が活性化しています

文化の秋、実りの秋となり、各学校でも文化祭・学習発表会などが行われていることと思います。都中理の各委員会としての活動も、昨年にもまして活発に行われています。

私の身の回りに限っても、研究部がとりまとめをくださった都研修センター主催の研修会の1コマとして10/21(木)に本校の田浦教諭が「化石からわかること」ということで上野の科学博物館と連携して研究授業を行いました。また、残念ながららがえませんでした。環境教育委員会で浄水場と荒川五中の蛍飼育の見学会がありました。この後にも、教育課程委員会が実施する「放射線」の研究授業が11/15(月)に練馬区立中村中学校で予定されていますし、11/19(金)に研究部の企画している会員発表会、11/27(土)に研修部が東電と連携して企画している「エネルギーの研修会」など、様々な研究会や研修会が行われます。

現在学校や教員がおかれている状況を考えると、これらの研究会・研修会への参加は本当に難しいと思います。どのような手立てをとり、内容を工夫しても、参加される方を増やすというのは難しいことです。都中理としては、もちろん多くの方々にとって魅力のある活動を行っていきたくと思いますが、その成果を数で判断するのではなく、地道に活動を継続していくとを大切にしていきたいと思っています。

部長や委員長をはじめとする各部員、各委員会の先生方に心から感謝します。

## 2 エネルギー環境教育の提案

先日私の学校で社会科の先生が研究授業をしました。テーマは、「南アメリカの環境問題」です。持続可能社会実現のために開発と自然保護のバランスをとっていこうという趣旨の授業でした。残念ながらその授業を見ることはできませんでしたが、指導案をもとにその教員と話をしました。

環境に関する学習は理科でも行いますし、別に、エネルギー問題も理科でも学習します。ただし、これらの学習には、人間生活、特に経済活動が非常に重要な要素となってきます。これらを分けるのではなく、エネルギーと環境、政治経済と合わせて学習していく必要があるのではないのでしょうか。また、社会科の先生と一緒に授業研究を進めていく必要があるのではないのでしょうか。そこで、「エネルギー環境教育」という言葉を提案したいと思います。

皆さんのご意見をお寄せください。